

## 10. 令和3年度 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

### 千葉県循環器病センター 脳神経外科 青柳 京子

#### まとめ

令和3年度も千葉県循環器病センターは千葉県てんかん支援拠点病院に指定され、てんかん地域診療連携体制整備事業活動は2年目を迎えた。COVID-19感染拡大に伴い令和2年度にも増して診療や集会・施設訪問の制限が加わったが、WEB研修会・市民公開講座を通しての啓蒙活動や、症例検討会への参加者数・参加施設数の増加、延べ外来患者数や電話相談数の増加など、昨年度を上回る実績を上げることであった側面もあった。

#### 1. 診療に関する事業

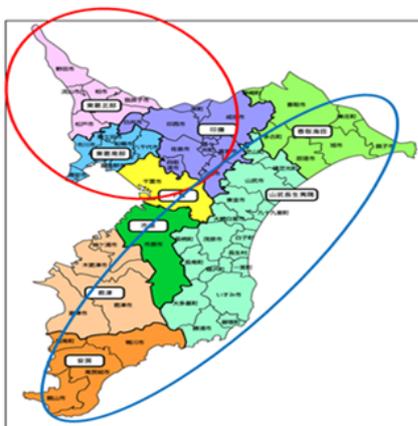
##### 1) 実績（別紙「令和3年度てんかん支援拠点病院の指標について」参照）

令和2年度に引き続き、COVID-19感染拡大を受け不要不急の診療の延期、患者家族の付き添いの禁止が求められ、さらに令和3年8月から10月にかけてはCOVID-19対応のための千葉県の臨時医療施設へのスタッフの派遣のために脳神経系病棟が閉鎖されたため、付き添いの必要な長時間脳波ビデオ同時記録検査をはじめとする検査目的の入院に大幅な制限が生じ、のべ入院患者数、新規入院患者数、てんかん手術件数、長期脳波ビデオ同時記録件数ともに目標値を下回る値となる見込みである。一方で、てんかん支援拠点病院として広く認識されるようになり、新規外来患者数および延べ外来患者数は今年度目標値を上回る見込みである。また、令和2年8月より開始した電話相談、外来での看護介入、専門診療問い合わせの件数も昨年度実績値を上回る見込みとなっている。

##### 2) 診療連携に向けての取り組み

千葉県は9つの二次保健医療圏からなっており、人口が集中し大病院が多数存在する北西部と人口密度が低く医療資源へのアクセスが困難な東部南部では異なる診療体制の整備が望まれる。二次医療圏の中核病院への訪問・電話連絡・研究会開催などにより、千葉県でのてんかん診療連携の構想について情報を提供した。診療実態調査の結果を集計中であり、調査結果をホームページ等に掲載することで医療機関間での連携体制の強化を図っていく。また、コーディネーターが地域包括ケア実務者会議、中核地域生活支援センター会議、地域包括ケアシステム構築推進事業研修、精神病院長会議への参加や施設訪問（保健センターなどの公的機関4施設、特別支援学校5施設）を通して昨年同様顔の見える関係を構築すると共に、各施設の実態や拠点機関に求められている役割についての情報収集を行った。さらに、千葉県移行期医療支援体制整備事業の連絡協議会へもコーディネーターが参加した。厚生労働省は小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業を立ち上げ、移行期医療体制を推進している。小児期発症のてんかん患者も移行期医療対象であるが、実際に受け入れ先等にも難渋するケースもあり、今後、てんかん診療拠点病院としてスムーズに診療を受け入れる体制づくりを移行期支援センターと協働していく契機となった。

## 千葉県二次保健医療圏



保健医療圏	人口(人)	構成市町村
千葉	966,154	千葉市
東葛南部	1,760,137	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市、浦安市
東葛北部	1,375,743	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市
印旛	726,140	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡酒々井町、栄町
香取海浜	282,442	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、香取郡神崎町、多古町、東庄町
山武長生夷隅	437,962	茂原市、東金市、勝浦市、山武市、いすみ市、大網白里市、山武郡九十九里町、芝山町、横芝光町、長生郡一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、夷隅郡大多喜町、御宿町
安房	129,159	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡鋸南町
君津	328,836	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
市原	278,587	市原市
通計	6,285,160	37市16町1村

平成30～35年度千葉県保健医療計画より

### 3) 多職種・多施設によるてんかん症例検討会開催

平成30年のてんかんセンター設置以来、院内の多職種（脳神経外科医・精神科医・脳神経内科医・看護師（看護局・病棟・外来・手術室）・薬剤師・栄養士・社会福祉士・言語聴覚士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・事務局）による症例検討会を開催し、診断・治療のみならず、家族背景への配慮や社会福祉資源の活用も含めた検討を重ねてきた。令和2年度よりZoomを用いたオンラインカンファレンスを導入し、千葉大学脳神経外科・小児科・脳神経内科・生理検査技師、浅井病院精神科、木更津病院精神科、東邦大学医療センター佐倉病院小児科、国際医療福祉大学成田病院脳神経内科、行徳総合病院から参加登録をいただき、各症例についてより活発な議論がなされた。

### 4) 外来医師派遣・オンライン診療導入

てんかんは有病率の高い疾患であるにもかかわらず専門医療へのアクセスが困難であることが課題となっている。一般の脳外科医・神経内科医・精神科医で診断・治療に難渋する症例は当院への紹介を勧めているが、当院の交通アクセスが不良であることから患者が受診を希望しないという現状もある。このため、これまでの千葉大学医学部附属病院に加え、令和3年1月より済生会習志野病院への医師派遣を開始し、てんかん専門外来を開設した。令和3年度12月までの2施設合計での外来受診者数は306件であった。

同様に遠方からの通院患者に対しオンライン診療を用いて頻繁に外来受診を行うことで、服薬コンプライアンスの向上と適切な薬剤コントロールを図るべく、令和3年4月よりオンライン診療システムを導入し令和3年12月までに60件の診療が行われた。今後、遠隔連携診療料の対象となる医療機関同士の連携体制の構築も計画している。

## 2. 教育・啓発活動に関する事業

### 1) ホームページ開設

令和2年4月に病院ホームページ内に脳神経外科から独立しててんかんセンターのホームページを開設し、てんかんセンター、てんかんの診断や治療についての情報を掲載した。下記3)のパンフレットのPDF掲載や研修会案内を適宜アップロードしたところ、アクセス数が増加した。また、患者・患者家族が自身でホームページの情報を検索し、専門診療問い合わせや新規外来紹介受診につながる例も多数みられ、外来患者数の増加に寄与した。

## 2) 研修会・公開講座開催

今年度4回の研修は COVID-19 の感染拡大を受けて全て Zoom のウェビナーで開催とした。教育・福祉機関向け研修会は心理的支援をテーマとした。参加者の75%は養護教諭であったが、障害受容や援助の大切が理解できたという感想が多かった。また、研修会後に障害者福祉施設での研修会講師を依頼されるなど、反響が大きかった。第1回市民公開講座は、自身もてんかん患者である講談看護師を講師に招き「病気だってともだち」をテーマとした。市民向けの研修としては完成度の高い研修との評価も頂いた。12月には「てんかんを正しく知ろう」をテーマに医療機関向けの研修会を開催し、院内の医師・薬剤師・社会福祉士・看護師を講師とし、診療拠点機関の役割・てんかんの基礎知識・治療と検査・薬物療法・社会資源と支援制度・生活上の留意点についての講演を行った。また、令和4年3月5日には第2回市民公開講座「高齢者のてんかん」を予定している。市民公開講座として県民だよりに広報したことで、参加数の増加が期待される。今年度は、参加者の要望に応え、研修資料を事前にホームページに公開し、資料と照らし合わせて視聴できるように手配した。次年度はハイブリッド形式での開催も検討している。

### R3年度実績

研修区分	日付	テーマ	参加人数
教育・福祉機関向け研修会	令和3年7月31日	思春期から青年期のてんかん患者の心理的支援	109
市民公開講座	令和3年8月21日	びょうきだってともだち	55
医療関係者向け研修会	令和3年12月4日	てんかんを正しく知ろう	67
市民公開講座	令和4年3月5日予定	高齢者のてんかん	

## 3) パンフレットの作成・配布

令和2年度に作成した外来患者向けパンフレット「てんかんと診断された方へ」「てんかんの外科治療について」「災害への備え」を外来に設置するほか、ホームページからPDFとしてダウンロードできる形で公開している。今後、内容のブラッシュアップも検討している。

## 4) 広報誌への情報提供

千葉県医師会発行の県民向け広報誌「ミレニアム」への記事投稿、日本てんかん協会千葉県支部月刊誌「わかしお」への事業内容や活動現況報告の寄稿、千葉県委託事業中核地域生活支援センターいちほら福祉ネットへの情報提供などを行った。

## 3. 教育・研究に関する事業

### 1) 千葉大学医学部附属病院との連携

脳神経外科研修医向けレクチャーや脳神経外科・小児科との合同症例検討会を行っている。

### 2) 京都大学脳神経内科学教室との共同研究

硬膜下電極記録、脳深部電極記録の解析をテーマに共同研究を開始した。

### 3) 千葉県がんセンターとの共同研究

千葉県がんセンター脳神経外科・放射線画像診断部と連携し、functional MRI の新たなタスクの開発やロボット支援下 SEEG に向けての準備を進めている。